

# 平和運動センター通信 原水禁ヒロシマニュース

■発行：広島県平和運動センター  
原水爆禁止広島県協議会（広島県原水禁）  
■〒733-0013 広島市西区横川新町7-22 自治労会館 1階  
■TEL:082-503-5855 FAX:082-294-4555  
■E-mail:h-heiwa@chive.ocn.ne.jp  
■広島県原水禁 ホームページ <http://www.hiroshimaken-gensuikin.org/>  
ー子どもや孫たちに、戦争も核もない、美しい地球を！ー

No. 203

2017年  
12月号  
(12月1日)

発行責任者  
渡辺 宏  
(事務局長)

11月13日開催しました平和運動センター第23回定期総会において、向う1年間の活動方針が決定されました。

この国が一体どこに向けて歩もうとしているのか。政治と経済が本当にこの社会を支えている人々にとって、豊かに感じる事ができる社会となっているのか。格差や差別の助長につながってはいないか。平和が脅かされているのは他国のせいなのか。もうすぐ今年も終わるとき、1年を振り返って足元を固め、あらゆる反動政治に立ち向かう英気を養っていきましょう。

## ――目次――

- 1頁：12月の活動予定（12/1現在）  
2頁：「憲法のつどい ひろしま」 安倍「9条加憲を止める」講演（11月2日）  
3頁：平和運動センター第23回定期総会報告（11月13日）  
5頁：3000万人署名・ヒロシマ総がかり行動開始  
6～：原水禁常任理事会・原水禁学校Ⅱ（11月25日）  
10頁  
末尾：12.8 不戦の誓いチラシ/3000万人署名/街頭配布チラシ

### 【12月の活動予定】（12月1日現在）

- 12月3日（日）世界人権宣言69周年記念集会（福山市人権交流センター）  
安倍9条改憲反対！街頭署名行動（福屋前）  
12月6日（水）フォーラム平和・人権・環境/原水禁中央会議（連合会館）  
12月7日（木）原爆ドーム世界遺産記念集会（原爆ドーム前）  
12月8日（金）県護憲幹事会・不戦の誓いヒロシマ集会（自治労会館3階）  
12月10日（日）I CANノーベル平和賞受賞を祝う集い（原爆ドーム前）  
12月13日（水）第1回常任幹事会・第1回幹事会・地区代表者会議  
第3回被爆72周年原水禁大会実行委員会  
2017原水禁学校Ⅲ（いずれも自治労会館）  
12月16日（土）部落解放研究者集会（三原市人権文化センター）  
12月17日（日）♀女性会議第35回定期大会（広島市市街づくり交流プラザ）  
12月22日（金）県護憲2018年度総会（自治労会館）

## ～安倍「9条加憲」を止める～

### 「憲法のつどい・ひろしま」開催

11月2日アステールプラザ中ホールにおいて400人の参加で「憲法のつどい・ひろしま」が開催されました。この集会は「ストップ戦争法！ヒロシマ実行委員会」（平和運動センターも一員）が、安倍自民党総裁が打ち出した「自衛隊を憲法9条に加憲する」という改憲案が、早ければ来年の夏の通常国会に発議されるという情勢から、全国で展開していく安倍改憲阻止の「3000万署名」のキックオフ集会として開催したものです。講師の早稲田大学の水島教授は、かつて広島大学でも教鞭を執っていたこともあり興奮気味に大変精力的で頭脳明晰、快刀乱麻らしく現内閣の綻びと危険性を暴露される姿勢に圧倒されました。



講演は詳しいレジメがあったのですが、90分の内、1時間ほどは、レジメに関連した話から脱線しつつも「安倍加憲」の本質を詳細な歴史的事実や法文の引用を交えながら、笑い飛ばす痛快なプレゼンテーションでしたので、会場は笑いに包まれつつ、知的な刺激

に唸る充実した一時になりました。ただ、もう少し時間があれば「9条加憲」の問題点について、理論武装できたのではとの学び不足は、これから「署名活動」を推進するために、実行委員会では同様な学習の場を、県内各地で開催することで補えればと思います。

講演の中で注意を喚起されたことに「四字熟語」に惑わされることが多いとその例が示されました。（為政者たちが政治を劣化させてきた歴史を重く受け止めよう。）

- ・ 「国際貢献」とは、自衛隊の海外派遣のことだった。
- ・ 「政治改革」とは小選挙区比例代表並立制という悪しき選挙制度の導入のことだった。
- ・ 「規制緩和」の名の下、誰のため、何をどう規制するのは問われずに、私たちを守ってきた規制が緩められてしまい、何でもありになってしまった。
- ・ 「憲法改正」が一番危険な四字熟語だ。

この集会での締めくくりとして、「ストップ！戦争法 ヒロシマ実行委員会」の難波事務局長から、全国で取り組む「3000万人署名」、安倍「9条改憲」阻止に向けた県内運動の展開についての提起も行われました。

## 平和運動センター第 23 回定期総会を開催(11月13日)



平和運動センターは11月13日、自治労会館で代議員39名（内委任5名）、特別代議員（地区労）5名、オブザーバー参加労組（全造幣）役員12名の58名が参加し、第23回定期総会を開催しました。議長団に出田義行代議員（JR西労）、森崎賢司代議員（広教組）を選出し、議事に入りました。

開会にあたり佐古正明議長は「この一年は、1年前の戦争法に続き、戦前の治安維持法と似通った共謀罪法成立阻止の運動をはじめ、平和憲法を無視する安倍政権の暴走との闘いでした。アメリカのトランプ大統領へすり寄る安倍政権は、ますますこの国を戦争のできる国へ導くことと、森友・加計学園問題にみられるように、政治の私物化、北朝鮮との緊張を利用しての軍事国家への道を突き進んでいる。ますます平和運動の重要性が増している。ぜひ今後の加権阻止の運動へ結集していただきたい。」とあいさつしました。

総会には6名の来賓（連合広島・久光博智会長、広島県被団協・前田耕一郎事務局長、広島県原水禁・金子哲夫代表委員、憲法を守る広島県民会議・檀上正光代表委員、部落解放同盟広島県連合会・山下真澄副委員長、朝鮮総聯広島県本部・李兌炯（リテヒョン）委員長）の皆さんにご臨席いただきあいさつを受けました。また、平和フォーラムなどから8通のメッセージを頂きました。執行部から2016年度活動報告・決算報告、2017年度活動方針案・予算案、役員改選案の提案を行い、議案は満場一致で承認されました。次年度の大きな運動は労組内においても地域においても改憲策動をいかに分かり易く反撃をしていくか。学習と行動が問われる1年になります。課題は山積していますが、平和と民主主義を守るために、センターとしての役割を果たしていきます。

### 【2017年度役員一覧】

議長	佐古 正明（私鉄県協）	幹事	景山 浩（私鉄県協）
副議長	戸守 学（自治労）	幹事	中本 英治（農協労連）
副議長	石岡 修（広教組）	幹事	嘉本 憲二（全農林）
副議長	門長 雄三（高教組）	幹事	遠藤 博志（全自交）
副議長	山本 学（全水道）	幹事	内藤 雄介（日放労）
副議長	宮内 秀佳（JR西労）	幹事	森原 博之（私教連）
副議長	門田 浩英（シンコー労組）	幹事	土屋みどり（スクラムユニオン・ヒロシマ）
事務局長	渡辺 宏（自治労）	オブザーバー	吉田 正彦（全造幣）
会計監査	児玉 聖（中国労金労組）	会計監査	大原 知也（熊平製作所労組）

## 総 会 宣 言

平和運動センターは、本日、第23回定期総会を開催し、平和と民主主義を守るために、部落差別・朝鮮人差別をはじめとするすべての差別に反対し、被爆地ヒロシマからの反核・反戦・護憲運動の先頭に立って闘うことを確認した。

9月28日、安倍首相は臨時国会冒頭での解散に踏み切り、10月22日投開票で衆議院選挙が行われた。森友・加計学園問題の究明を求める野党の臨時国会開催要求を踏みにじり、市民社会の不信に向き合うことなく、保身のために「国難突破」などと言いつくろうこの暴挙は、絶対に許されるものではない。

選挙結果は「希望の党」のリベラル派排除なども影響し、残念ながら自公で3分の2を占める結果となり、今後さらに「2020年改憲」をめぐる動きは、重大な局面に立ち至っているといえる。

広島県における「安保法制に廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」は、まだ全県に広がりはできていないものの、平和運動センターは、「戦争をさせない1000人委員会」に結集し、総がかり運動として、「ストップ！戦争法ヒロシマ実行委員会」で共同を積み上げてきた。今後も県内の地域・職場で、安倍政権の憲法破壊に対しNO！を突きつける広範な運動を市民と連帯して総がかり行動を展開していくこととしている。

とりわけ、これから取り組む「安倍9条改憲NO！憲法を活かす全国統一3000万署名」運動の推進には、労働組合は無論、地域に拡げる行動の展開が必要となる。

平和運動センター構成労組は、県内地域でも共闘の輪を広げて、総がかり運動の一翼を担い、集会や学習会を組織し、改憲勢力に抗する運動を展開し、自民党が狙う参議院選挙と同時に行動している、「憲法改正」国民投票で過半数を取らせないため、改憲反対の世論を組織して、平和憲法改悪を阻止することをめざす。

憲法の改悪の行く先は、歴史的に「反戦平和を訴える労働運動への弾圧」につながることは明白であるがゆえ、働く仲間の結集が問われている。私たちは本総会で確認された方針にもとづき、「いのちと人権・平和」を守るため、組織内はもちろん県内各地で改憲阻止の運動を推進することをここに宣言する。

2017年11月13日

広島県平和運動センター第23回定期総会

ご来賓の方々にはお忙しい中、ご臨席いただきありがとうございます。

各労組役員の皆さんには、総会への参加・運営ご協力ありがとうございました。

## ～安倍「9条改憲NO！」を広げるために～

### ヒロシマ総がかり行動・3000万人署名開始

平和フォーラムが全国で総がかり行動として取り組む「3000万人署名」の目的は、この運動を通じて、安倍首相が自衛隊を憲法に規定するとの意味だけではなく、国民主権から国家権力による統治をとという戦前の帝国憲法への回帰をもにらんだ第一段階での手法であり、その入り口としての「9条への自衛隊加憲」という「改憲」の動きを阻止するために、労働組合はもちろん、市民社会と連携して、世論形成を行っていくことにあります。（ニュース末尾の署名用紙参照）

広島においても、この提起を受けて各団体が、「ストップ！戦争法ヒロシマ実行委員会」を発展させ、新たに名称を「戦争をさせない・9条を壊すな！ヒロシマ総がかり行動実行委員会」と改称し、来年5月末までに、有権者の過半数の署名を目標に展開することとしています。

既に、フォーラム構成産別からの指示で、署名活動を開始している労組もありますが、この運動のフォローと、地域での取り組みについて平和運動センターとしても積極的に支援をしていきます。

そのため、まずは県内各地での「学習会」の開催を行っていくことが重要課題になります。平和運動センターは「戦争をさせない1000人委員会」の一員として、この実行委員会へ加わっています。今後県内で共同行動による学習会や街頭行動を呼び掛けていきます。

関連して、実行委員会の中心地である広島市内では、12月から19日行動を3の日（憲法記念日）行動へ切り替えて街頭での訴えや署名活動を展開していくこととしています。地域によっては19日行動が継続して、テーマを統一されていくこととなります。

.....

## 11・25 県原水禁 11月常任理事会 及び

### 「原水禁学校Ⅱ」開催

県原水禁は11月25日に常任理事会を開催し、9月以降の活動報告と当面する課題の協議を行いました。当面する課題では、被爆者団体協議会（二つの被団協がありますが協働して）が2020年3月までに、県内140万人署名達成に向けて進める「ヒバクシャ国際署名ヒロシマ推進連絡会」への参加要請について受諾することとしました。また、今年7月国連で採択された「核兵器禁止条約（核禁条約）」と「ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）のノーベル平和賞受賞」との関係では、引き続き被爆地ヒロシマの運動団体として、能動的に受け止めるとともに、我が国政府が「核の傘」からの脱却と唯一の被爆国として国際社会での役割を果たすべく、核禁条約の批准に向けて運動の強化を確認しました。

12月10日（日）13：00～原爆ドーム前の集会への参加も確認しました。

午後は2017「原水禁学校Ⅱ」として、フィールドワークを開催しました。以下その報告は常任理事である中谷悦子さんの「ヒロシマの心を世界に」への記事から掲載します。

## 広島の被爆遺構、被服支廠で「戦争の終わり」を学ぶ

原水禁学校の第二回の報告です。報告は本ブログのスター・ライターの一人中谷悦子さんです。

広島の被爆遺構、被服支廠で「戦争の終わり」を学ぶ



2017年度2回目の原水禁学校は、被服支廠での被爆者の証言から始まった。被爆者は中西巖さん。原爆が投下された当時15歳。広島高等師範学校附属中学校の生徒だった。学徒動員で被服支廠での連日の作業に動員されていた。賃金はなし。文字通りただ働きだった。



被服支廠は1913年に竣工され、南北500m、東西300mの広大な敷地に1号から13号までの倉庫、作業を行う建物、従業員のための保育所などが建造されてい

た。ここでは、兵士が戦場で使用する軍服、軍靴、ベルト、毛布、一人用のテントが作られていた。中西さんの言では六尺褌も作られていたそうだ。まるで兵士の死装束を作っているようだった。

## 動員学徒のストライキ



中西さんから面白い話を聞いた。動員学徒がストライキを決行したというのだ。戦争末期になると、布や靴下などの生活必需品が不足し、中には工場から品物が消えることもあったそうだ。そのため従業員の身体検査が行われた。それが学生たちまで拡大されるということに立腹し仕事をするのを止めたそうだ。軍人は弾圧しようとしたが 肝のすわった学生二人の訴えがみとめられたそうだ。お咎めはなし。逆に彼等の言葉は廠長の心を動かした。



## 8月6日-命を救った3つの幸運

8月6日。中西さんの命を救った3つの幸運とは。一つは市内中心部に荷物の運搬に出かけることになっていたがトラックが遅れたので出かけなかった。二つは建物の近くにいたため30度の角度で襲った熱線を浴びなくてすんだ。3つは実家が郊外で、爆心地から離れていったこと。

## 8月6日-水!みず!水!



次から次へと運ばれてきた被爆者たちのうめき声-水!水!これは地獄だと思った。「おかあさん、死にたくないよ」という女学生の声在未だに憶えていると語ってくれた。自分の名前や自宅の住所を叫び、家への連絡を頼む声も忘れられない。亡くなった人は穴を掘ってそこで焼かれた。

### 死者から叱咤される思い

原爆投下後、半年間は急性原爆症で苦しんだ。色々な幸運が重なり生きることができた。しかし核兵器はまだまだある。こうやって話していても建物の中から亡くなった仲間が「何をしようのか」と叱咤している気がする。最後に話してくれた。「生かされている」という思いを多くの被爆者から聞く。戦争の愚かさ、むなしさに気づいた時、闘うことをしなかったことへの反省を私たちに必死に伝えてくれようとする被爆者の声をしっかりと受け止めたいと考えさせられた。原爆投下という人類未曾有の戦争犯罪で幕を閉じた軍都腐蝕。戦争-その果ての原爆投下。この真の歴史を決して繰り返させてはならない。命の問題だ!

## 大本営跡で「戦争の始まり」を学ぶ



広島城では中国軍管区司令部跡と大本営跡で金子哲夫さんの話を聞いた。大本営跡に立つ明治二七二八戦役廣嶋大本営の碑を前に、日本と広島が歩んだ戦争の歴史を学んだ。明治二七二八戦とは日清戦争のこと。ここに大本営が置かれ、9月15日から翌4月27日まで明治天皇が滞在し帝国議会が開催された。東京ではなかなか決まらなかった戦費一億五千万円が一日で決まったという。

## 真実を塗り隠す



大本営跡にある石碑はなぜか塗りつぶされている。この碑文を解明した人がいるらしい。「史蹟名勝天然記念物保存法に依り 大正十五年十月内務大臣指定」の

文字を占領軍が広島に入った時あわてて塗りつぶした。あった歴史を隠し、真実が伝えられないのは現在も同じ？

軍と共に歩んできた歴史はこんな所にも



ここで面白い話を聞いた。広島市の水道の歴史だ。1899年1月に市水道として給水を開始している。広島市の水道は天皇の勅令により軍用の水道という形で敷設された。これはそれまで例がないことだったという。日清戦争が起こると多くの軍人が広島市に集まったことも大きな要因になった。疫病を防ぐにはきれいな水の確保が大切だったということであろうか。こんなところにも軍と歩んできた歴史がのぞく。

.....  
(後記)

11月25日に行われた「部落解放広島県共闘会議」のフィールドワーク及び11月30日～12月1日にかけて名古屋市で行われた、「部落解放共闘全国交流集会・総会」については1月号で紹介します。

厳しい冬となるとの予報です。来る2018年が少しでも明るい年になりますように。今年大変お世話になりました。来年もよろしくお願いします。(編集者)